

ハナミズキ

にほんの
よみかた 花水木

和・属

ミズキ科・サンシュユ属

ハナミズキのとくちょう

36

ハナミズキは大きな木のわりにはっぱや花はちいさくさきます、えださきにはっぱがだえんけいについています。

ハナミズキのつかわれかた

あきのこうようやあかじゅくしたかじつなどもたのしめ、また、かってにきのかたちがととのうのでみちにはえているきのほかおうちのにわのきにもつかわれ、かんしょうようの木としてもりようされています。

ハナミズキ		和名	花水木		36
		別名	アメリカヤマボウシ		
分類	科(APG分類)	ミズキ科		属	ヤマボウシ属
	科(旧分類)			属	
	科(旧分類)			属	
名前の由来	<p>・ミズキ「水木」という名は、春先にミズキの木の枝を切ると水が滴り落ちるほど水分を含む木ということで「ミズキ」と名付けられた。そのミズキ科の樹木の中でも特に花が美しく目立つことから、花の美しいミズキという意味でつけられた。</p>				
樹木の特徴	<p>・北アメリカ原産の落葉小高木。花木として庭木、公園樹、庭園樹などとして植栽されている。</p> <p>・花は両性花で、花期は4～5月、葉が展開する前あるいは同時に開花する。花序の基部には花弁のように見える総苞片が4個ある。長さ4～6cm、広倒卵形で先は凹み、白色または桃色、ときに紅色。実際の花は、総苞片の中心に小さな花(径5mm程の球形)が15～20個集合して、順次開花する。(虫や鳥に花があることを教えるために、花弁のような苞がある)</p> <p>・果実は核果で、長さ約1cmの楕円形、9～10月に暗紅色に熟す。毒はないが渋みが強く、おいしくない。鳥たちには人気でヒヨドリ、ムクドリ、オナガなどが食べに来て、散布される。</p> <p>・葉は対生し、枝先に集まってつく。葉身は卵状楕円形または卵円形で、葉の縁は全縁でわずかに波打つ。葉表は緑色で全面に毛が散生する。葉裏は粉白色で脈上に毛がある。</p>			  	
用途・その他	<p>・日本における植栽は、1912年に当時の東京の市長であった尾崎行雄氏が、アメリカ合衆国ワシントンD.Cへサクラ(ソメイヨシノ)を贈った際、1925年にその返礼として贈られたの始まり。贈られたハナミズキは全部で60本(白花苗木40本、ピンクの苗木20本)で日比谷公園、小石川植物園などに植えられた。</p> <p>・ハナミズキは英語で「犬の木」を意味する「dogwood」と呼ばれる。この語源には諸説あるが、17世紀ころにハナミズキの樹皮の煮汁が犬の皮膚病の治療に使われたためと言われている。</p>				